No.

DATE

視察研修報告書

視察先	国際親善総合病院（神奈川県横浜市）
テーマ	居ながら改修と増築による再整備について
期日	令和8年8月18日(火)
報告者	本島信二
概要	再整備が必要となった背景は1990年の移転後25年が経過し、開院当初の施設基準や敷地形状による環境制限など、いくつかの問題が大きくなってきていた。移転先の候補地の確保が困難で将来計画の時期が見通せないこと、増築による対応が可能であったことから、新築による全面建替えではなく「居ながらにして改修と増築による再整備」を選択した。再整備の手法について重要な財政面では当法人は大きな借入れがない為、本部が保有する資金を主な財源とした。患者、利用者への工事期間中の配慮については極力低振動、低騒音の工法を実施！トラブルが生れば出来るだけ早急に対応できる体制を整えた。病床稼動率（約84%）の維持に向けた工夫は入院病棟に関しては、1棟ごとに工事区画し、外来については各診療科の利用できる診察ブースを限定し、すべての診療科が休診にならないように調整したとの事。結果、メリットとして建物躯体の有効利用、建築費の削減、既存建物がある為、法的制限を改めて取得する必要がないこと、デメリットは、工期に時間がかかる既存設備や駐車による制限、医療機器や施設基準の変更が多くなること。
所感	確かに色々な努力研究をされ、再整備を成功されているが私が一番に配慮するのは財源の問題である。公立大学法人病院を今後立派に維持、発展していくにも先立つ財源である。視察したこの病院にはその点（財源）も再整備に必要なだけのものがあったからである。あくまで財源の見通しをつける事が先決である。

6mm×40行

No.

DATE . .

視察研修報告書

視察先	三条市（新潟県）
テーマ	ふるさと納税の取組について。働き方改革について
期日	令和8年8月19日(水)
報告者	中島信二
概要	三条市の概要について。人口89377人 世帯数37441世帯、面積431.97㎢ 職員数726人（令和8年4月1日）豊かな自然に恵まれた歴史と文化の息づく創意にみちたものづくりのまちとなっている。 ふるさと納税は（令和7年度実績で45億円）に達している。急激に伸びた理由としては、普通は中間業者に業務を委託するが、三条市では事務全般を委託せず庁内直営で行われている。直接、契約から配送まで行われている。返礼品においても「ものづくりのまち」を生かしアウトドア用品、キッチン用品、日用品等が豊富である。又ふるさと納税の返礼品提供事業者向け勉強会が毎年行われる。 働き方改革とDX推進の取組について。 人材を確保する為には魅力的な職場環境が必要。職員が楽をする為ではなく市民サービスを維持する為である。 主な取組としては、育休取得の推進、ビジネスカジュアルの推進、リモートワークの推進、名刺の公費負担、名札の表記を名字のみに、電話録音機能の導入、ITの活用による業務効率化など。
所感	どの自治体も、ふるさと納税については力を入れていると思うが、三条市の中間業者を省いた庁内直営については学ぶものがあると思う。 働き方改革については参考にはなるが八女市においてもかなり進んできたのではないだろうか

6mm×40行

No.

DATE . .

視察研修報告書

視察先	見附市（新潟県）
テーマ	スマートウェルネスみつけについて（日本一健康なまちづくりを目指して）
期日	令和8年8月20日（木）
報告者	中島信二
概要	見附市の概要は人口37,294人、世帯数15,350世帯、面積77.91km²、高齢化率35.2%。 日本一健康なまちづくりを目指した見附市だったが健康行動の無関心層が65%あり、解決に向けて普段の生活で自然と必要な運動が満たされるまちづくり歩いて暮らせる「Smart Wellness City」を目指した。 これまでの健康施策4本柱＋まちづくり全体の要素。生きがい、食生活、運動、健(検)診をあげ、まち全体の「健幸」SWC施策を実行する。 SWC施策を進める6つのポイント。 ①社会参加（外出）できる場づくり ②中心市街地を中核とした賑わいづくり。 ③歩きたくなる快適な歩行空間の整備。 ④特徴的な取組み 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり。 ⑤過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備。 ⑥SWC推進のカギは人材である。 健康情報の伝導師「健幸アンバサダー」を養成する。 健康ポイントの導入。日々の運動に地域商品券をして与える。
所感	スマートウェルネスについては研究の価値あり、実利を伴う事業はどこの住民も歓迎だろうと思う。 八女市も健康ポイントは継続すべきだ。

6mm×40行